

「災害時要援護者支援事業」取組みのためのアンケート調査
＜集計結果＞

目次

- I はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 頁
- II 「災害時要援護者支援事業」取組みのためのアンケート集計表・・・・・・ 2 頁
- III 網島本町自治会の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2 頁

平成27年 3月
網島本町自治会

はじめに

このたびは年末のお忙しい時期に、アンケート調査にご協力いただき有難うございました。昨年12月現在、綱島本町自治会の世帯数は、238世帯ございましたが、諸事情から221世帯を対象にアンケート調査のご協力をお願いいたしました。調査結果の詳細は、次頁以降をご覧ください。

1 調査期間 平成26年12月13日～平成27年1月31日

2 調査目的

日頃の見守りや災害時に手助けが必要な人をご近所の人たちが協力し合って支援する「災害時要援護者支援事業」についての意識調査と啓発を兼ねて実施いたしました。

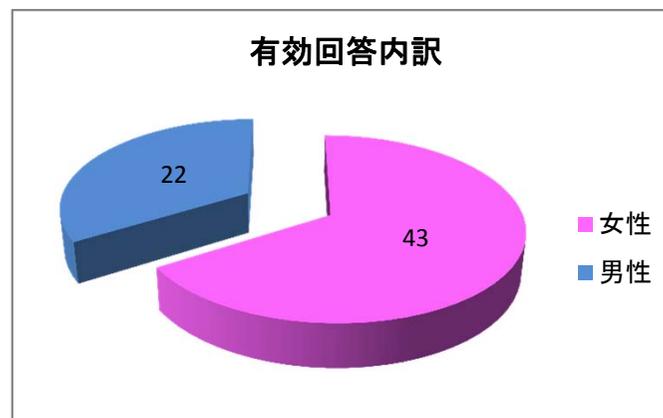
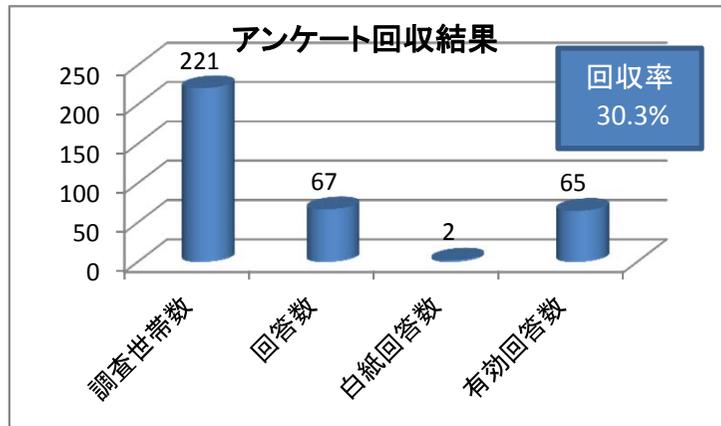
「災害時要援護者支援事業」取組みのためのアンケート集計表

性別	世帯構成	年齢層								計
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	
女性	一人					2	5	2		9
	二人		3	4	1	5	4			17
	三人以上	1	3	5	1	2	4	1		17
男性	一人			1	2		2			5
	二人			3		2	5			10
	三人以上		1	2	1	1	2			7
計		1	7	15	5	12	22	3		65

【アンケート回収結果】

	調査世帯数	回答数	白紙回答数	有効回答数	回収率
世帯数	221	67	2	65	30.3%

	女性	男性	計
有効回答内訳	43	22	65

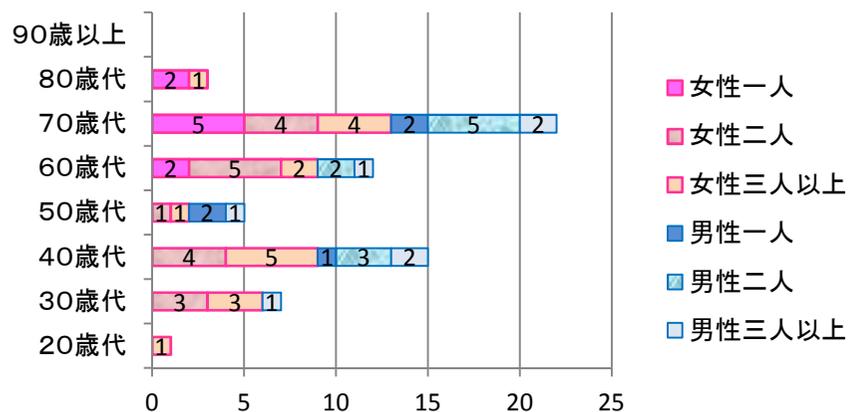


【回答者内訳】

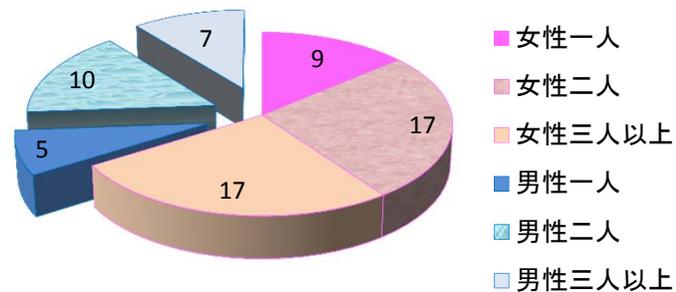
性別・世帯構成	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	計
女性一人					2	5	2		9
女性二人		3	4	1	5	4			17
女性三人以上	1	3	5	1	2	4	1		17
男性一人			1	2		2			5
男性二人			3		2	5			10
男性三人以上		1	2	1	1	2			7
計	1	7	15	5	12	22	3		65

性別・世帯構成	計
女性一人	9
女性二人	17
女性三人以上	17
男性一人	5
男性二人	10
男性三人以上	7
計	65

性別世帯数別、年代別回答数

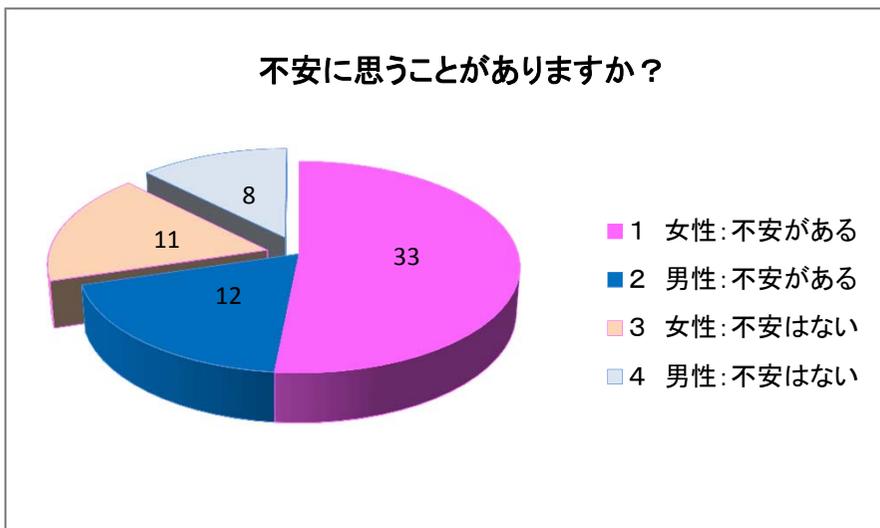


性別世帯別回答数



【設問. I】「不安」に思うことがありますか？

	女性	男性	計	比率
1 不安がある	33	12	45	70%
2 不安はない	11	8	19	30%



回答者の7割が「不安がある」と答え、男女別でもほぼ同じ傾向が見られた。＜男性20人中12人(60%)が「不安がある」、女性は、44人中33人(75%)＞また、「不安」要因も家族構成、年齢、生活の態様などで様々でしたが、やはり災害時、特に防ぎようのない自然災害である「地震」を挙げた人が多く見られた。これは、地震そのもの恐怖感だけでなく、電気、ガス、水道などライフラインの確保など被災後の生活確保への不安を挙げています。

●その他

- ・避難所にペットと一緒にいけるか
- ・避難している間の家の防犯・家族等との連絡手段、交通の便
- ・どう行動したらいいのか分からない

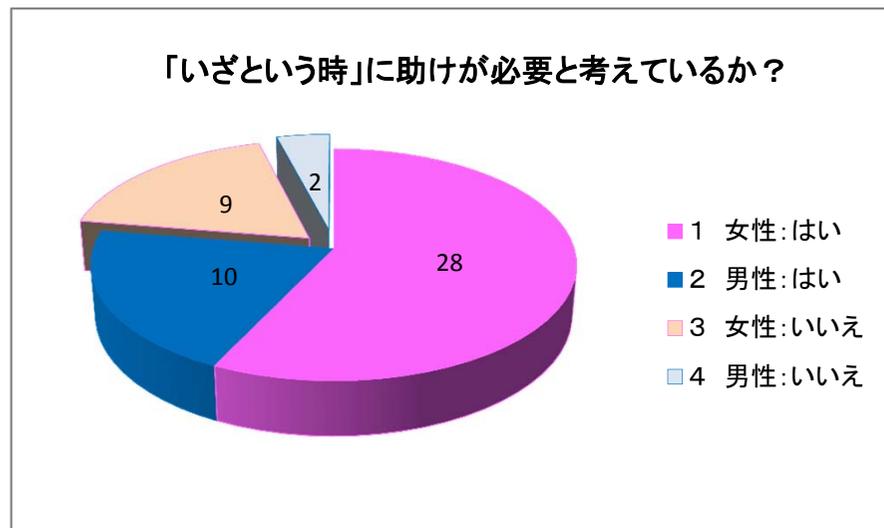
1 「不安がある」場合～どんな不安？

- いつ、どこでおこるかわからない大地震や災害
 - ・大地震
 - ・規模の大きさ、種類
 - ・夜中に災害のあった場合
 - ・どこで被災するか分からない
- 災害が起きたら、家は、電気・ガス・水道は、水・食料・トイレは大丈夫か？
 - ・家屋の倒壊、インフラ(電気・ガス・水道など)設備の破壊 (2)
 - ・停電
 - ・火災、冷暖房
 - ・水、電気、ガスの供給(ライフラインの確保) (2)
 - ・十分な食事とトイレの確保
 - ・食糧、水 (2)
- 家族～子供が大丈夫か、介護が必要な家族は？
 - ・家及び家族のこと
 - ・家族の安否 (2)
 - ・日中は女性と年少児だけになってしまうこと
 - ・1歳児がいるので避難時に子どもを抱えて荷物が持てるか不安
 - ・自分と子供3人の時、災害があったら、無事子供たちを守れるか、避難できるか
 - ・仕事で親が戻れないときの子供のこと
 - ・子どもが小学生なので避難の際に連絡が取れないこと
 - ・子どもの安否確認がすぐ確実に出来るか
 - ・働いているので、子供と離れている時間に震災があったら不安
 - ・耳の遠い家族がいるので対応に不安
 - ・介護が必要な家族がいて、介護用品の確保が心配
- 一人では避難できないかもしれない自分
 - ・体調(特に心臓が弱っているためなど) (2)
 - ・災害など緊急時に両足不自由につき、避難が出来ないか？
 - ・一人の時の対応 (3)
 - ・一人で被災した時、助けに来てくれる人がいるかどうか
 - ・二世帯住宅だが、昼間は一人で生活している
 - ・救出救護
- 近所の助け合い
 - ・隣近所の人とのコミュニケーションが無いため不安
 - ・日常生活の中で助け合いの関係が出来ていない (2)
 - ・ご近所の連帯感
 - ・地域の地震時の取組や、地域の人とのつながりが薄すぎる場所が不安

(左側の「●その他」に続く)

【設問. II】「いざという時」に助けが必要と考えているか

	女性	男性	計	比率
1 はい	28	10	38	78%
2 いいえ	9	2	11	22%



「いざという時助けが必要」と答えた人が、49名の内38名(約8割 近くの人)いて、「誰に」助けて欲しいかでは、隣近所を挙げた人が約5割いた。

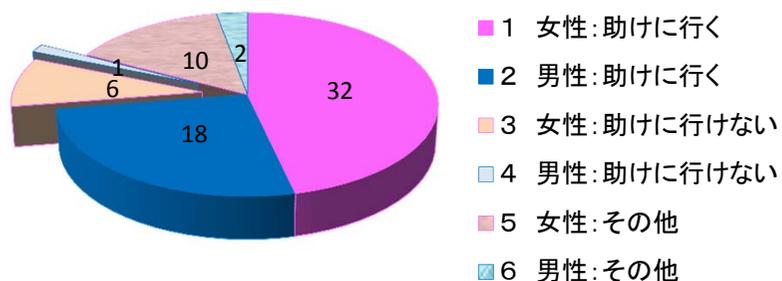
2 誰に助けて欲しいと思っていますか？

- 家族、近所、友人、行政など～「近所」が多い
 - ・ 家族
 - ・ パートナー、家族、友人
 - ・ 家族、近所の人、綱島地域で普段交流のある人 (2)
 - ・ 消防、近所の人、自分の子ども
 - ・ 近所の方々
 - ・ 隣近所の気心の知れている方たち
 - ・ 近所の方、行政の方
 - ・ 知人、近所の方
 - ・ 地域の皆様
 - ・ 隣人、家族、行政
 - ・ 防災拠点の人
 - ・ 主人がいないときは、力のある人
 - ・ 避難所に行く時、荷物を持ってもらえたら助かる
 - ・ 祖母の世話
 - ・ 行政に頼む(近くに娘がいるが、仕事に行っていると心配)
 - ・ 自衛隊
 - ・ 救急車
 - ・ 誰でもいい
 - ・ ケガで動けないとき以外は大丈夫だと思う
 - ・ 無回答 (2)

【設問. Ⅲ】 「いざという時」に、助けに行けますか？

	女性	男性	計	比率
1 助けに行く	32	18	50	73%
2 助けに行けない	6	1	7	10%
3 その他	10	2	12	17%

「いざという時」に助けに行けますか？



3 いざというとき助けに行かれるか→「その他」

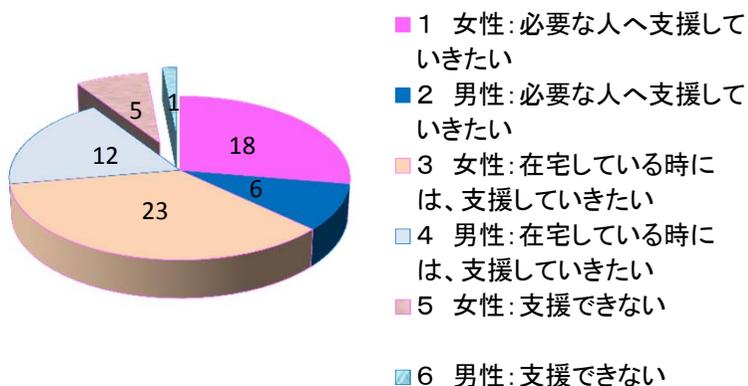
- 状況によって(行く)
 - ・仕事で留守がちだが、在宅中なら行く (2)
 - ・場合によるが、助けに行ける
 - ・行けたら行く
 - ・状況次第 (3)
 - ・その時、家にいれば協力できます
- わからない (3)

前問の「誰に助けて欲しいか」では、「近所の人」は約5割ほどでしたが、本問では、70%を超える人が「助けに行く」と答え、地域には、心強い「お助け人」の存在があることが分かりました。

【設問. IV】 「日頃の見守り」、「災害時の手助け」が必要な人の支援について、どのようにお考えですか？

	女性	男性	計	比率
1 必要な人へ支援していきたい	18	6	24	37%
2 在宅している時には、支援していきたい	23	12	35	54%
3 支援できない	5	1	6	9%

支援について、どのようにお考えですか？



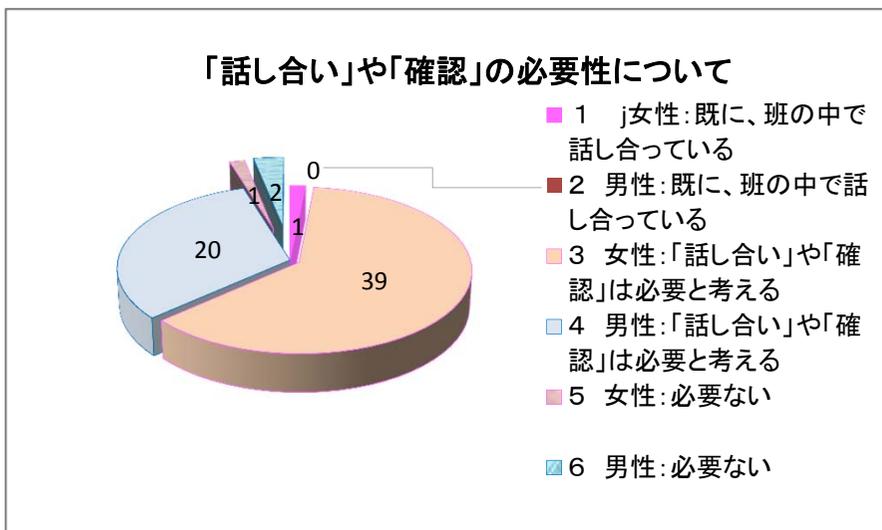
4 「日頃の見守り」「災害時の手助け」が必要な人の支援について、支援できない理由

- 自分が高齢・要援護者
 - ・自分が高齢なので (3)
 - ・腰が痛いので
 - ・要援護者であるため
- 小さい子供がいる
 - ・幼児二人を抱えているため
 - ・小学生や幼児がいるので長時間は無理だが、近所の声かけ程度は出来る
- 誰を支援すればよいかわからない
 - ・近所のつながりが希薄なので、どのような方を支援したらいいかがわからない

「支援していきたい」、「在宅している時には、支援していきたい」合わせて約9割の人が、「お助け人」候補者でした。地域の人たちの災害時の心構えが出来ているようです。

【設問. V】 「日頃の見守り」、「災害時の手助け」について、班の中で「話し合い」や「確認」の必要性について

	女性	男性	計	比率
1 既に、班の中で話し合っている	1	0	1	1%
2 「話し合い」や「確認」は必要と考える	39	20	59	94%
3 必要ない	1	2	3	5%
(計)	41	22	63	



班の中での話し合いは「必要ない」と答えた人は、63名中3名で、59名の方が「必要」とし、今回のアンケート調査にご協力いただいた大半の方が、何らかの形で「話し合いの場」設けて取り組んでいくという姿勢がうかがえました。

5 「日頃の見守り」「災害時の手助け」について班の中で「話し合い」「確認」の必要性

①話し合いをする場は出来ている

②必要と考える

- やっている
 - ・ご近所の方の安否は伝え合い、助けが必要な時は声かけしている
- 必要、やりたい
 - ・高齢者・一人暮らしなどの確認
 - ・班長が班内の住民とのコミュニケーションを密にするなど、まず、班内で災害時の話し合いが大事
 - ・顔見知りの方を増やせたらいいという時にもっと心強い
 - ・支援の方法や避難場所など、近所同士で確認は必要だと思う
 - ・時間があれば、お互いに声かけが大切だと思います
 - ・班、ゴミ出しグループ等の話し合い、会議
 - ・今後やっていけたらと思う
- 必要だがなかなかできない
 - ・必要だと思うけどなかなかできない

③必要ない理由

- 難しい
 - ・必要だと思うが、なかなかできない
 - ・日頃親しくないので難しいと思われる
- 現実味がない、危機感がない

【設問. VI】 自治会町内会の活動・役割はどうあるべきと考えますか？

●助けが必要な人の情報共有

- ・手助けが必要な人の情報共有は必要と思う(個人情報の問題はあるが)
- ・ご近所に手助けが必要な方がどの位いるか、また具体的な状況、お名前などが分かっているれば手助けが迅速に行われると思います
- ・個人情報の取り扱いに気を付けなければいけないとは思いますが、近所の互いの連絡先のフロー図が必要なのかなと思います。
- ・プライバシーの問題があると思うが、自治会長は手助けが必要な方を確認しておいてもらいたい
- ・班の話し合いへの参加や班を越えての対応が必要な場合への情報提供
- ・各班の長は、近所の住民がどのような助けを必要としているのか、実際に災害が起きた時に、その希望の手助けが出来るのかをきちんと把握する役割や場を設けるべきだと思う
- ・忙しいけど、たまには、一軒一軒家庭訪問されると、その家の方がどうして欲しいかわかります。

●知り合う機会の提供

- ・日頃の近所付き合いの中で、お互いに気にかけてあげることが大切で町内会では、行事等を通じて近所の人たちが知り合う機会を提供することが役割と思う
- ・日頃の声かけ・支援が必要な人の周知・避難場所・方法の周知・訓練など日頃の交流のきっかけづくり
- ・近隣の人と人をつなげる役割。顔を知っているだけでも大分違うと思われま
- ・顔の見える行事、事業

●日頃からのつながり

- ・もっと密な意味でのコミュニケーションは必要。あいさつ程度のお付き合いしかない「いざ」という時に何の機能も働かないと思います。
災害時だからではなく日頃から肩ひじ張らないコミュニケーションをご近所さんととりたいたいと思っていますが、なかなか難しいのが現状です。
- ・この頃新規に引越してこられた方々が挨拶(自己紹介)が無いのでどの様な方なのか不明
- ・ゴミを捨てる時などに顔を合わせたりすることが、大切だと思います
- ・災害訓練の時など、班内で主な方を自己紹介していただくといざという時に声をかけやすい
- ・頻繁な巡回等による日常生活状態の確認が出来れば絆もより深まるのではと思う

●助け合い活動を始める

- ・自治会が支援互助のコーディネーションのセンターとして機能できることが望ましい
- ・自治会町内会が音頭をとって、地域住民の自立した「助け合い」の活動を広めていく活動を始めたかどうか
- ・支援が必要な家庭だけでなく、統制が取れた動きが出来るようにするためのリーダーシップをとること。動きが具体的にわかるためのマニュアル化。
- ・マニュアルを作成する
- ・手助けが必要な人をリストにあげ、分担して見守っていく
- ・黄色の旗など安否確認の為、自宅の見える場所に掲げる方法などみんなが安全・迅速に避難できればいいと考えている
- ・元気な方が協力して、支援の必要な方々を手助けするのは当然であると思います。具体的な方法の確立を期待します
- ・具体的にこのような調査が始まったことを喜んでいきます。

●みんなで考える

- ・人々の意見をよく聞く事が必要と思われる
- ・数年に一度は、隣近所(班単位)で話し合いの機会が必要と思う
- ・近所の気質として、”気が付いた人がやればよい”が多く、自分本位、自己中心的という日常なので自分自身がしっかりと考えるようにいたします
- ・隣近所の少人数の輪から関心を！
- ・町内会の人々に活動を周知すべき

●高齢化の課題

- ・お互い協力支援は大事だと思えますが、高齢化しているので現在の状況では難しいと考えます
- ・高齢のため難しいと思っているが、その時の状況によっては手助けしたいと考えています

●集会所が必要

- ・町内の集会所があればいいが、マンションの様に集会所がないので一戸建ては心配なところがある

今回のアンケート調査結果から、「災害時要援護者支援」は、高齢者、障がい者の方々だけでなく、小さなお子様を持つ若い世代の方にも災害時等の対応で「不安」を持たれる方が多くみられました。さらに、「不安」をお持ちの内で約8割の方々に、「いざという時に助けが必要」との回答がありました。一方で、アンケート回答者の7割を越える方々が「いざという時に助けに行く」と回答されています。そして、「誰に助けて欲しいか」では、約5割の方が「隣近所の人」と回答されています。このように、様々な不安要因をお持ちの方々がいる中であって、綱島本町自治会の会員の皆さんの「災害時要援護者支援」に対する受け止めが非常に前向きであることも分かりました。特に、「日頃の見守り」、「災害時の手助け」では、94%の方々が、班の中での「話し合い」や「確認」が必要と回答されてもいます。

以上のことから、綱島本町自治会における「災害時要援護者支援」の取組の方向性が示されていると感じました。そこで、これからの取組としては、各班の様々な世帯構成や、年齢層などを考慮したうえで、各班単位あるいは必要があれば隣接する班の皆さんなどとも、日常的な生活の中で無理のない形で検討していただくことが最適な方法ではないかと考えます。

この「災害時要援護者支援事業」は、いつまでにという期限はありません。要は、昔のような地域コミュニティを形成していこうということですので、日頃から意思の疎通をよくして、班の隣近所の皆さんが災害時要援護者支援について情報を共有できる方法をご検討いただき、それを実践で確保できるようになれば班の皆さんの安心安全が確立していくと考えます。

【アンケート集計後記】

今回は自治会として初めて「アンケート調査」を試みました。不慣れでしたが、港北区役所、港北区社会福祉協議会の皆様のご指導ご協力と自治会の会員の皆様のご理解ご協力により、何とかまとめることが出来ました。

災害時要援護者支援はこれからが本番ですが、今回のアンケート調査結果を弾みにして会員の皆さんと共に取り組んでいければと考えています。少し大げさですが、「地域の課題」に会員の皆さんと心をつなげて長い道のりを歩いて行けるのはとても幸せなことだと思っています。この「災害時要援護者支援」は、お一人おひとりの意識を一つにするということ、とても大変なことだと思います。

それは、皆さんに意識改革を求めることになるからです。

皆さんの「不安」を100%解消するのは困難かもしれませんが、限りなくそれに近づけられるよう一步一步進んで参りましょう。

この「アンケート調査」が、その第一歩です。改めて、綱島本町自治会の会員の皆さん有難うございました。

了

綱島本町自治会の活動状況

1 概要

昭和 49 年（1974 年）4 月に発足し、既存の自治会（主として綱島上町自治会）の中に点在しています。活動歴が平成 27 年 4 月で 41 年目になる小規模自治会です。

【自治会の規模】

世帯数：245 世帯

町会の班数：24 班

（班長は班内の会員さんが、順番で半年又は 1 年交代で務めている）

2 自治会の組織

会長、副会長（2 名）、会計（1 名）、会計監査（1 名）、理事（数名）から構成。

① 役員会の開催：基本的には月 1 回、定例役員会を開催。

② 役員・班長合同会議：年 2 回開催。（7 月、11 月）

3 自治会の活動

① 環境事業として毎年 7 月最後の日曜日に「わが町大掃除とゲーム大会」を開催するほか、資源ごみ回収事業を実施。

② 安全・安心環境づくりとして、防犯灯の整備、維持管理と防火・防犯パトロールへの参加（毎週木曜日）、防災訓練の実施や地域防災拠点訓練へ参加。

③ 社会教育活動として、綱島地区スポーツフェスタアバル開催時に、地域の子供会へ助成。

④ レクリエーション事業として、日帰りバス旅行・餅つき大会、その他綱島地区の行事（さくら祭り、菜の花祭り、少年すもう大会、盆踊り大会、夏祭り、スポーツフェスティバルなど）への参加。

⑤ 福利厚生事業として、新入学児童への名前入り鉛筆の配布、綱島地区敬老会への参加やそのための対象高齢者の調査・案内を実施、年 3 回ある募金活動の協力を会員に依頼。

4 各班別世帯数（平成27年3月31日現在）

網島本町自治会世帯数

平成27年 3月31日 現在)

班	号	世帯数
I	1	7
	2	14
	3	1
	4	10
	5	7
	7	9
	9	4
	10	12
	14(2区分)	(A13,B11) 24
	15	16
	16	16
17	14	
小計	13(班)	134(世帯)
II	1(2区分)	7+12+1) 30
	2	6
	3	9
	5	8
	6	7
	7	6
	8	14
	9	9
	10	12
	11	6
小計	11(班)	107(世帯)
合計	24(班)	241(世帯)

*自治会区域図・・・次頁参照

網島本町自治会区域図
(網島西5丁目の一部)

